

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第39週[9月26日～10月2日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

インフルエンザの報告についてお願い

感染症発生動向調査報告様式のコメント欄にインフルエンザの迅速検査結果を記入していただきたく、新たに記入欄を追加いたしました。お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

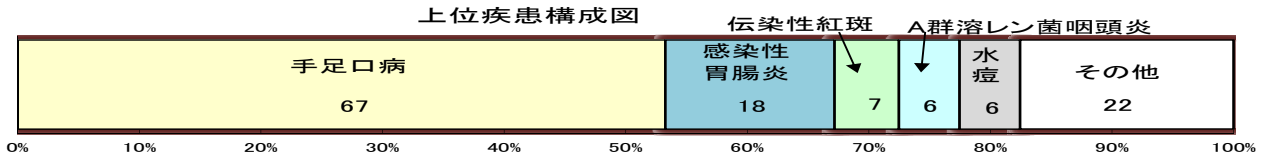
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：手足口病，マイコプラズマ肺炎

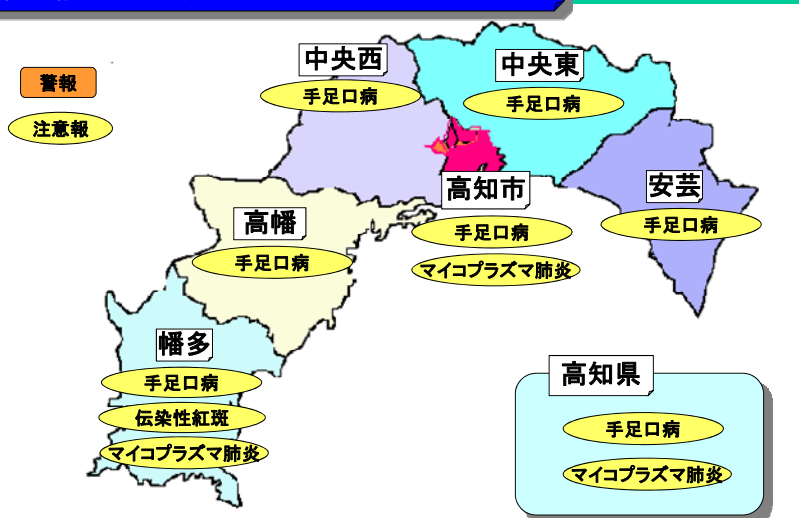
- 週を通して晴れや曇りの過ごしやすかった。
- 手足口病（中央西：警報→注意報，高幡：注意報→注意報，幡多：注意報→注意報，中央東：注意報，高知市：警報→注意報，安芸：注意報）は高知市，中央西，幡多で減少し，総数は引き続き減少した。
- 感染性胃腸炎は例年同様低いレベルで推移しているが，11月頃からノロウイルス等の流行がみられ始め，報告数が急増するので，流行前から手洗いなどの予防を心がけてほしい。
- 伝染性紅斑（幡多：注意報）は高知県ではほぼ5年周期で流行がみられている。今回は平成19年に流行がみられ今年が4年目であり，今後報告数が増加することも考えられるため，推移に注意が必要である。
- マイコプラズマ肺炎（幡多：注意報→注意報，高知市：注意報→注意報）は総数は横ばいで，引き続き注意報値を超している。搬入された検体から *Mycoplasma pneumoniae* 5件が検出されている。

上位疾患構成図



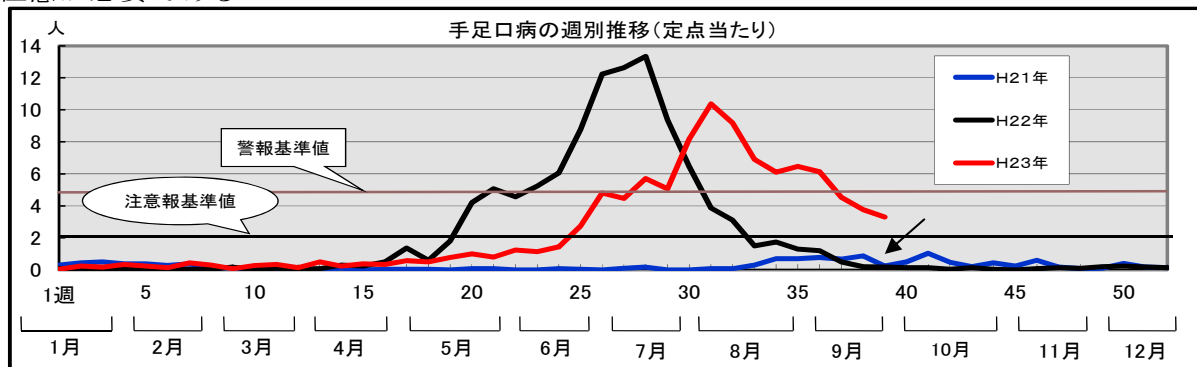
地域別感染症注意報・警報発生状況

第39報 (2011年9月26日～2011年10月2日)



手足口病：今週 3.30 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

総数は引き続き減少している。前週まで高知市と中央西で警報値を超していたが、今週ようやく全ての地域で警報値を下回った。しかし、中央東では2倍以上に増加しており、まだしばらくは注意が必要である。



RSウイルス感染症：今週 0.27 (注意報値, 警報値：基準値なし)

前週はやや減少したが、今週再び増加した。全国的には2004年以降の同時期の報告数としては、最も多い状態が第16週以降継続しており、今後高知県での推移にも注意が必要である。

検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
39	マイコプラズマ肺炎	7歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	マイコプラズマ肺炎	9歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	マイコプラズマ肺炎	4歳 女	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	マイコプラズマ肺炎	6歳 女	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	マイコプラズマ肺炎	8歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
32	突発性発疹	1歳 男	高幡	Human herpes virus 6
36	肺炎	2歳 女	高知市	Human metapneumovirus
36	咽頭炎	12歳 男	中央東	Human metapneumovirus
35	無菌性髄膜炎	1ヵ月 女	中央東	Rhinovirus
34	感染性胃腸炎	2歳 男	中央東	Rhinovirus
38	肺炎	11ヵ月 男	高知市	Human metapneumovirus

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 5例 (60, 80, 90代男) 《高知市》 (20, 80代男) 《中央西》 (今年140例)
4類感染症：レジオネラ症 1例 (70代男) 《中央東》 (今年6例)

○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 1例 (3歳女) 帯状疱疹 1例 (0歳男)
マイコプラズマ感染症 2例 (6歳男, 10歳女)

高幡：

《もりはた小児科》：帯状疱疹 1例 (4歳男) マイコプラズマ肺炎 1例 (8歳男)
アデノウイルスによる滲出性扁桃炎 1例 (1歳男)

中央西：

《石黒小児科》：口唇ヘルペス 1例 (15歳女) マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳男)
《くぼたこどもクリニック》：口唇ヘルペス 1例 (4歳男：高知市) 感染性胃腸炎の1例 (2歳男) は須崎市
手足口病の1例 (3歳男) は須崎市, 1例 (3歳女) はいの町

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 3例 (6歳女, 2, 7歳男)
サルモネラ陽性 (0-9) 2例 (9歳女, 6歳男)
病原性大腸菌 (0-1) 1例 (8歳女)

中央東：

《吉本小児科皮膚科》：マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳女)

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 3例(4,6,9歳) アデノウイルス咽頭炎 2例(5,9歳)
《早明浦病院小児科》：2保育園で手足口病が増加(今回は発熱伴わず,手足口腔内に典型的皮疹を認める)

全国情報第37週(9/12~9/18) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核364例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢13例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、日本紅斑熱2例、日本脳炎1例、マラリア1例、レジオネラ症22例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎(B型)1例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群14例(AIDS 3例、無症候10例、その他1例)、ジアルジア症1例、梅毒9例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例、麻しん3例

報告遅れ：コレラ1例、細菌性赤痢2例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、ライム病1例

◆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症(respiratory syncytial virus infection)は、病原体であるRSウイルスが伝播することによって発生する呼吸器感染症である。年齢を問わず、生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスの初感染を受けるとされているが、乳幼児期においては非常に重要な疾患であり、特に生後数週間~数カ月間の時期においては母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、下気道の炎症を中心とした重篤な症状を引き起こす。

潜伏期間は2~8日、典型的には4~6日とされているが、発熱、鼻汁などの上気道炎症症状が数日続き、その後下気道症状が出現してくる。咳嗽、鼻汁などの上気道症状が2~3日続いた後、感染が下気道、とくに細気管支に及んだ場合には特徴的な病型である細気管支炎となる。炎症性浮腫と分泌物、脱落上皮により細気管支が狭くなるに連れ、呼吸性喘鳴、多呼吸、陥没呼吸などを呈する。心肺に基礎疾患を有する児においては、しばしば遷延化、重症化する。喀痰の貯留により無気肺をおこしやすい。発熱は初期症状として普通に見られるが、入院時には38℃以下になるか、消失していることが多い。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50~90%を占めるとの報告もある。また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、临床上、公衆衛生上のインパクトは大きい。合併症として注意すべきものには無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症等がある。

予防方法としては、遺伝子組み換え技術を用いて作成された単クローン抗体製剤(Palivizumab:パリーブズマブ)が2002年1月に認可されており、早産児や慢性肺疾患を持つ小児などのハイリスク児に対しては、流行前から流行期の間、1カ月毎に予防的な投与が考慮される。

RSウイルスの主な感染経路は飛沫感染と接触感染であるが、感染力が強く、また再感染例等で典型的な症状を呈さずにRSウイルス感染と気付かれない軽症例も存在することから、家族間の感染や乳幼児の集団生活施設等での流行を効果的に抑制することは困難であるといわれている。小児の集団生活施設で流行している場合は、RSウイルス感染症と診断された有症状者を隔離(欠席を含む)することに加えて、(1)飛沫感染対策としてはマスクを着用するなどして咳エチケットに努める、(2)接触感染対策としては手洗いもしくは速乾性刷式アルコール製剤による手指消毒剤による手指衛生を励行する、等を職員も含めて全員が実行すべきである。

RSウイルス感染症の発生動向については、感染症法改正(2003年11月5日施行)により対象疾患となり、全国約3,000の小児科定点医療機関から毎週報告がなされている。診断は臨床症状のみでは不可能であることから、届出基準としてウイルスの分離・同定、迅速診断キットによる抗原検出、血清抗体検出(中和反応または補体結合反応)による病原検査が必須とされている。しかし、臨床現場で最も簡便な迅速診断キット検査については、医療保険適用として入院例のみが対象であり、小児科定点医療機関の70%以上を占める病院以外の一般医療機関では診断に至らずに報告されていない症例が少なくないと推察される。従って、発生動向調査によるRSウイルス感染症の報告数は、国内の現状を正確に反映しているとは必ずしも言えない面もあるが、ここ数年その報告数は増加傾向にあり、また最近では外来診療の際にもRSウイルスの迅速抗原検査を実施する小児科医が多くなってきているとの指摘もある。

RSウイルス感染症の小児科定点医療機関からの報告数は、例年冬期にピークが見られ、夏期は報告数が少ない状態が継続しているが、2011年は第25週から増加傾向が続いている。第37週の患者報告数は1,414例であり、2004年以降の同時期の報告数としてはこれまでで最も多い状態が第16週以降継続している。都道府県別の報告数をみると、大阪府(205)、宮崎県(160)、東京都(126)、福岡県(100)、香川県(69)、愛知県(50)の順であり、26都道府県で前週よりも増加がみられている。

2011年第1~37週の累積報告数(34,900)の年齢群別割合をみると、0歳児42.3%(0~5カ月19.6%、6~11カ月22.7%)、1歳児32.4%、2歳児13.5%、3歳児6.4%、4歳児3.0%の順であり、1歳以下で全報告数の約70%以上を、3歳以下で全報告数の90%以上を占めているのは、2004年以降変わっていない。

RSウイルス感染症は冬季に最も流行する感染症であり、例年12月か又は翌年の1月にそのピークを迎えている。第37週の報告数は、例年であれば10月中旬から11月下旬に認められる水準であり、今後冬期に向けて更に報告数が増加してくるものと予想される。RSウイルス感染症は、その重篤性や合併症から特に乳幼児において極めて重要な感染症であり、今後の同疾患の報告数の推移についてはより一層の注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(38週)	高知県(39週末累計) H23/1/3~H23/10/2
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									101 (0.02)	12,336 (257.00)
小児科	咽頭結膜熱		4	3				7 (0.23)	11 (0.37)	533 (0.17)	314 (10.47)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	2	6	1	1	4	15 (0.50)	9 (0.30)	1,620 (0.52)	1,800 (60.00)
	感染性胃腸炎	2	11	20	7	1	1	42 (1.40)	40 (1.33)	6,594 (2.11)	6,519 (217.30)
	水痘	1	1	8	4		1	15 (0.50)	21 (0.70)	1,472 (0.47)	1,455 (48.50)
	手足口病	4	23	36	12	7	17	99 (3.30)	113 (3.77)	8,597 (2.75)	2,976 (99.20)
	伝染性紅斑			5	2	1	8	16 (0.53)	7 (0.23)	403 (0.13)	356 (11.87)
	突発性発疹			6	2	1	3	12 (0.40)	13 (0.43)	1,554 (0.50)	561 (18.70)
	百日咳			1				1 (0.03)	1 (0.03)	56 (0.02)	22 (0.73)
	ヘルパンギーナ	1	1	5	4		1	12 (0.40)	9 (0.30)	3,105 (0.99)	872 (29.07)
	流行性耳下腺炎			3	2		3	8 (0.27)	12 (0.40)	1,753 (0.56)	294 (9.80)
	RSウイルス感染症		3	5				8 (0.27)	3 (0.10)	1,336 (0.43)	580 (19.33)
眼科	急性出血性結膜炎								1 (0.33)	85 (0.12)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)		397 (0.58)	38 (12.67)
基幹	細菌性髄膜炎									11 (0.02)	4 (0.57)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	28 (0.06)	19 (2.71)
	マイコプラズマ肺炎			3			1	4 (0.57)	4 (0.57)	274 (0.60)	95 (13.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									8 (0.02)	8 (1.14)
計 (小児科定点当たり人数)	9 (4.50)	45 (6.43)	102 (8.91)	34 (11.33)	11 (5.50)	39 (7.60)	240 (7.83)				
前週 (小児科定点当たり人数)	15 (7.50)	32 (4.57)	118 (10.27)	27 (9.00)	13 (6.50)	40 (7.80)		245 (7.97)	27,927	28,250 (781.97)	

定点当たり

第39週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(38週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.02
小児科	咽頭結膜熱		0.57	0.27				0.23	0.37	0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.29	0.55	0.33	0.50	0.80	0.50	0.30	0.52
	感染性胃腸炎	1.00	1.57	1.82	2.33	0.50	0.20	1.40	1.33	2.11
	水痘	0.50	0.14	0.73	1.33		0.20	0.50	0.70	0.47
	手足口病	2.00	3.29	3.27	4.00	3.50	3.40	3.30	3.77	2.75
	伝染性紅斑			0.45	0.67	0.50	1.60	0.53	0.23	0.13
	突発性発疹			0.55	0.67	0.50	0.60	0.40	0.43	0.50
	百日咳			0.09				0.03	0.03	0.02
	ヘルパンギーナ	0.50	0.14	0.45	1.33		0.20	0.40	0.30	0.99
	流行性耳下腺炎			0.27	0.67		0.60	0.27	0.40	0.56
	RSウイルス感染症		0.43	0.45				0.27	0.10	0.43
眼科	急性出血性結膜炎								0.33	0.12
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.58
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎								0.14	0.06
	マイコプラズマ肺炎			0.60			1.00	0.57	0.57	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.02
計 (小児科定点当たり人数)	4.50	6.43	8.91	11.33	5.50	7.60	7.83			
前週 (小児科定点当たり人数)	7.50	4.57	10.27	9.00	6.50	7.80		7.97		

